

2017年活動スローガン「ありがとう35周年 つながれ広がれエンゼルの愛」

報 告

〈バングラデシュ〉

2017年4月～6月支援分

●トイレ寄付

- ・野中郁子様よりカバシア郡の学校へトイレ1基
- ・会員有志の方よりカバシア郡の学校へトイレ7基
- ・国際ソロプチミスト大阪-中央様よりカバシア郡の学校へトイレ1基

●机・イス寄付

- ・会員有志の方よりカバシア郡の学校へ机とイス10セット

●その他の寄付

- ・仲島正教様よりカバシア郡の学校へ図書205冊
- ・会員有志の方よりYURIKOエンゼルスクールへ図書200冊

〈国内活動〉

6/1(木)に駐日バングラデシュ大使のラバブ・ファティマ氏にお会いし、当協会の活動などをお話させて頂きました。私達の32年にわたるバングラデシュ支援活動に感謝の言葉を述べられました。



イベント情報

7/29
(土)

チャリティコンサート2017

場所:伊丹アイフォニックホール(伊丹市)
時間:開場13:30 開演14:00
内容:混声合唱団「エンゼル」のコーラス、
「ティンカーベル」によるハンドベル
演奏など

10/18
(水)

秋のチャリティバザー

場所:本協会ボランティアセンター(伊丹市)
時間:10:00～14:00



●チャリティバザーにご協力ください●

バザーで販売する品物のご提供をお願いしています。食器・なべ類、寝具、タオル、衣料、食料品、石鹸、カバンなどいつでも受け付けています。ご近所でしたら引き取りに伺います。事務所までご連絡下さい。

☆取り扱っていないもの☆ 大型家具、使用済み食器等

編集後記

先日バングラデシュのエンゼルホームで鯉のぼりを作成しました。鯉のぼりと言えば赤や青、緑などを思い浮かべますが、現地の子ども達が作った鯉のぼりはとてもカラフルで、自由な発想で彩られた鯉のぼりはホームの緑の木々に良く映えていました。来年の子どもの日には日本の子ども達にも「好きな色で塗っていいよ」と言って作ってもらおうと思います。どんな鯉のぼりができるか楽しみです。

2017年 行事予定

7月現在

7月	29日(土)	チャリティコンサート	伊丹アイフォニックホール	伊丹市
9月	2日(土)	ノクシカタ販売	住吉大社	大阪市
	9/30(土)～10/1(日)	ノクシカタ販売	グローバルフェスタ2017	東京都
10月	18日(水)	秋のチャリティバザー	本協会ボランティアセンター	伊丹市
11月	11/5(日)	チャリティバザー	三木金物祭り	三木市
	11/11(土)	チャリティバザー	和歌山ビッグホエール	和歌山市

※その他詳しいことは、事務所までお問い合わせ下さい。

会員募集

本協会の活動は皆さまの会費の他、募金や寄付金、バザーなどのチャリティイベントの収益金によって支えられています。ご協力をお願いいたします。

●正会員

一般会員 年額1口 6,000円
特別会員 年額1口30,000円

●DCEF会員(教育里親)

1ヵ月1口 2,000円

※送金方法は現金書留又は郵便振替
でお送り下さい。
郵便自動払込方法も受付けています。

郵便振替・口座番号
01130-1-59586

※その他、バザー用物資によるご協力
もよろしくお願いします。

会員数: 一般会員 703名
DCEF会員 759名
(7月1日現在)

国際エンゼル協会は1982年伊丹市において設立され、「世界に愛を」をスローガンに、発展途上国への理解と協力を通して国際間の友好を深めると共に、すべての人々が共存できる平和な世界の実現に寄与することを目的としています。

発行者



特定非営利活動法人

国際エンゼル協会

〒664-0862 兵庫県伊丹市若菱町6丁目10番地
TEL.072(784)7504 FAX.072(784)4608
Home Page ● <http://www.angel-ngo.gr.jp>
e-mail ● post@angel-ngo.gr.jp

ANGEL NEW

通巻180号
2017.07

① バングラデシュ報告

② 楽しいボランティアひろば

35th
anniversary
ありがとう35周年

エンゼルホームの子ども達

1982年に創立した国際エンゼル協会は、前代表川村百合子を中心に20人足らずの主婦の人達で始まりました。それから35年たった今では会員は1,400人を越え、ボランティアをして下さる方も春・秋の大きなバザーの時は300人を越えるようになりました。

本協会の特色は、ボランティアの人達が自主的に活動を行っていることです。途上国の人達の喜びが私達の喜びです。人は誰でも心のどこかで人の役に立つことを願い、また人が喜んでる姿が自分の大きな喜びとなることを、体験を通して実感しているのではないのでしょうか。

今年の「楽しいボランティアひろば」ではたくさんの方々が来て下さいました。バングラデシュから2名のスタッフに来ていただき、現地での活動の報告をしていただきました。子どもコーナーでは、小さい子ども達の遊び相手になってお世話をする学生のボランティアの方達も増えました。若い人達が身近なところからボランティアを始める機会が増えれば人を思いやる心が育まれ、もっと明るい社会になるのではないかと願っています。



パングラデミユ報告

エンゼルホーム 卒業生達の その後

眼科実習生のアイシャさん (23 才)



アイシャ・シッディカ

アイシャさんは2000年、6歳の時にエンゼルホームにやってきました。小さい頃から明るく活発な女の子で、勉強やスポーツ、ダンスも得意でした。お茶目な面もあり、スタディツアーでエンゼルホームを訪れた会員さんにかわいい悪戯をしては、笑いながら逃げて喜んでいることがよくありました。

その後、2010年にHSC試験(高校卒業試験)で優秀な成績を修め、チッタゴン眼科専門学校に入学。卒業して「学士号」の資格を取得しました。現在実習中のアイシャさん、将来眼科医になる事を目指して頑張っています。

看護師を目指すナズニンさん (24 才)

ナズニンさんは2006年、13歳の時にエンゼルホームにやってきました。子どもの頃から誰に対しても優しく接するナズニンさんは、看護師になりたいという夢を持っていました。

2011年にチッタゴン看護師専門学校に入学して勉学に励んでいましたが、2013年、階段から落ちて脊椎を骨折し手術を受けました。無事手術は成功し2016年に卒業、現在は看護実習生として勉強中です。人の痛みを思いやれる優しくしっかりした看護師として活躍してくれることでしょう。



ナズニン・スルタナ

No.24

エンゼルホームの子ども紹介 モクシェドくん Moksedul Islam (11才)



モクシェド君は男の子ばかりの4人兄弟の2番目です。バングラデシュ最北部のパンチャゴール県に家族で暮らしていましたが、お父さんは彼が5才の時に病気で亡くなってしまいました。しだいに生活が苦しくなり、学校の先生の紹介で9才の時にエンゼルホームにやってきました。

スポーツが大好きでサッカー、クリケットも得意です。身軽で高い所も平気なモクシェド君はココナツの木にスルスルと登り、みんなのためにおいしい実をたくさん落としてくれます。

将来は電気技師になりたいというモクシェド君、これからも勉強にスポーツに頑張ってください。

学ぶことは自立への第一歩



奨学生のスピーチ



私は生まれつき目が見えませんでした。そして私の親も両方とも目が見えません。だから私にとって学校に行く事、勉強を続ける事はとても険しい道のりでした。私が小学生の頃は点字の本が無かったので、人に頼んで教科書等を録音してもらって勉強を続けてきました。経済的に支援が必要だった私に、学校の先生が国際エンゼル協会を紹介してくれました。

2011年、8年生の時から奨学金をいただけるようになりました。中学・高校を卒業するまでも厳しい環境でしたが、国際エンゼル協会の支援が私に勉強を続ける力を与えてくれました。大学にも入学する事ができました。これからも勉強を続けて大学を卒業したいです。

私は目が不自由だけど一生懸命勉強して社会に役立つ力を身に付けたいです。国際エンゼル協会の皆さん、本当に長い間ありがとうございます。創立者の川村さんも天国で見守ってくれていることを祈っています。



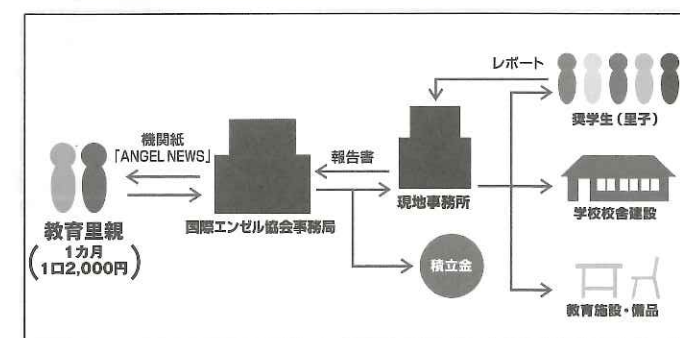
ジャヒドウル・イスラム
(ジャハングルノゴル大学政治政策学部1年生)

DCEF (ディセフ)とは…
[Developing Country Educational Fund]

経済的に恵まれない発展途上国の子供達に教育援助を行う里親制度。奨学金の供与や学校校舎の建設・設備の充実、農村女性を対象にした識字教室等を行っています。また、バングラデシュ以外に、フィリピン、スリランカなどの子供達にも支援しています。

DCEF へご協力をお願い

子ども達が夢をかなえる
為の小さな手助けを
頂けますか



DCEF (発展途上国教育基金) は、特定の子どもに対して個人的に援助しようというのではなく、奨学金制度などを通して教育里親全員で、より多くの子ども達に援助の手を差し伸べていこうとしています。

バングラデシュ、フィリピン、スリランカなどの自分達の国の未来を担う子ども達のために、DCEF会員へのご入会、ご協力をお願いします。

詳しい制度につきましては、お気軽に当協会までお問い合わせください。また、ホームページでもご覧いただけます。

<http://www.angel-ngo.gr.jp/dcef/>

第20回

楽しいボランティアひろば

2017



バン格拉デシュ活動紹介
現地スタッフによる
当協会プロジェクトの紹介



お楽しみイベント
エンキさんによる
中国琵琶の演奏



アジズル・バリ
バン格拉デシュ現地責任者

当日はお天気にめぐまれ、お手伝いの方や来場されたお客様みんなの笑顔で本当に素晴らしい一日となりました。国際エンゼル協会の活動が35年も続いてきたのはボランティアの皆さんのおかげであり、感謝の気持ちでいっぱいです。これからも皆さんが楽しみながら、バン格拉デシュやその他途上国の困っている子ども達や女性の幸せのために活動を続けてくださる事を願っています。



ローション・アラ・アクター
バン格拉デシュ現地スタッフ

ボランティアひろばは素晴らしかったです。このような素敵な催しをバン格拉デシュで見たことがありません。ボランティアの皆さんが一致団結して、お客様に喜んで頂こうとする姿を見てとても感動しました。バン格拉デシュを多くの方に知っていただくために、また子どもや女性への支援のために一生懸命に働いてくださったボランティアの皆さんに感謝します。



子どもコーナー



アロマワックスバー作り



模擬店販売



お楽しみ市



タロット占い

※このたびの手芸品の売上げや模擬店などの収益はバン格拉デシュなど途上国の子ども達の教育支援のために役立てさせていただきます。

6/4(日)に楽しいボランティアひろばが開催されました。様々なイベントがあり、参加された皆様にとっても喜んでいただくことができました。バン格拉デシュより現地スタッフも来日し、幅広い年代の方々に多数来場していただき、また一つエンゼルの輪が広がっているのを感じた一日でした。



ノクシカタ刺しゅう製品販売



サリーの着付け



手芸品展示販売



Aちゃん(小6)

今回は子どもコーナーでお手伝いをしました。小さい子ども達が何回も遊びに来てくれてバタバタしてしまいましたが、楽しそうに粘土を作る姿を見て自分も嬉しくなりました。お昼から活動紹介に参加して、バン格拉デシュの病院と日本の病院の違いに驚きました。楽しくて、勉強にもなって、お手伝いに来て良かったです。



Yさん一家

初めてかき氷売り場のチーフをさせていただき、大変だったけど充実した一日になりました。主人も「心地よい疲れだった」と言っており、息子は「一日楽しく過ごせた」と喜んでいました。少ししか参加できなかった娘も「もっといたかった」と残念がっており、家族で一日楽しませていただきました。



Iさん

チラシ配りやポスターの掲示をお願いしにお店を回っていた時に会った方が、当日会場に来て下さってとても嬉しかったです。また、当日はDCEFの紹介コーナーを担当させていただきました。私達の説明を聞いて会員になってくださる方もあり、人とのつながりの大切さを感じることができた一日でした。

第三弾 35年 ボランティアあれこれ

今回もボランティアの皆さんに心に残った懐かしい思い出についてインタビューしました。35年間の歴史はまだまだ続きます。

シエラレオネ 訪問

国際エンゼル協会は1984年から西アフリカのシエラレオネに傘や中古衣料などの物資の支援を始めました。

私は2006年、エンゼルの寄付で建てた竣工式に出席するために初めて現地を訪れました。そこには店もなく、緑もなく、上半身裸で米を突いている人がいて、まるで原始時代にタイムスリップしたような光景でした。1日1食の給食を食べるために何時間もかけて学校

に来る子ども達、私にとっては驚きでした。そんな過酷な地で長年現地の人々の為に明るく逞しく活躍されているシスター根岸、シスター白幡のお二人の姿にとっても感動しました。(M・H)



篠山で バーベキュー

2002年9月、緑に囲まれた篠山の広い公園で、親睦を図るファミリーデーがありました。エンゼルから家族連れ、若者達、そして福井からはぐるまの家の人達が現地で大集合しました。火をおこし、いろん

な食材を焼き、おにぎりを分け合い、大きな一つの大家族のように和気あいあいとなり、心がほぐれていきました。

十分におなかを満たした後は「はぐるま」の和太鼓が森の公園に響き渡りました。お天気に恵まれ、心晴ればれた一日でした。(I・O)



国際協力 フェスティバル

東京の日比谷公園で開催された国際協力フェスティバルに、20年程前に地区バザー係として関西から6名で応援に行きました。食のブースではカレーやサモサを販売し、活動報告のブースではサ

リーの着付け、ノクシカタ販売を行いました。東京にいる事も忘れて関西弁丸出しでお客様に接し、笑いが絶えず、関東・関西の会員が心をつなげて楽しめました。(N・A)



護国神社 バザー

ボランティア活動が始まった頃、どこかで小さなバザーをしたいと思っていました。ある時、神戸護国神社で毎月「蚕の市」が出ていると聞き、私達も知人をお願いして出店させていただきました。

神社の境内の真ん中に場所をもらい、ブルーシートを広げて着物や帯、手作りの人形の洋服を並べました。そして朝から三時ごろまで黙って座っていましたが、ほとんど売れませんでした。販売は難しいも

のたとつくづく思いながら、それでも周りのお店の方に親切にさせていただき、初バザーは楽しい体験となりました。

今でも場所柄外国の方も多く来られ、日本の昔の珍しい家庭用品などお土産に喜んで買って下さいます。(T・O)



連載コラム7

仲島正教の優しい風 ～ Loving-wind ～

甲子園3兄弟



ある日の甲子園球場、今夜も阪神タイガースを応援です。

私の席の前が2つ空いていたのですが、そこに3人の子どもがやってきました。▲教育サポーター 仲島正教 3人ともタイガースのユニホームに帽子を被り、タオルを首に巻いています。そして2つの席に3人仲よく座って観戦していたのですが、親の姿が見当たらないので、声をかけました。「お父さんかお母さんは？」

すると、お兄ちゃんが事情を話してくれました。鳥取県大山町から車でやってきたけど、切符が2枚しかとれなくて両親は球場の外で待っているというのです。せっかく甲子園まで来たのだから、子どもたちだけでも試合を見せたいと3人で場内へ入れたようです。そして試合が終わったら8号門で待ち合わせをしているというのです。1番上が4年生、2番目が2年生、3番目が年長5歳の男3兄弟です。

☆

☆

☆

それ以後、その子たちの様子も見ながら、野球観戦をしていたのですが、この3兄弟の様子に感心するばかりです。4年生のお兄ちゃんの言うことを、2人の弟がしっかりきくのです。5歳の子がモゾモゾ動くとお兄ちゃんが注意します。するとしっかり座って試合を観るのです。チェンジの間にお兄ちゃんは席を離れ、焼き鳥を3本買ってきました。そして5歳の子、2年生の子に1本ずつ渡して食べ始めます。広島攻撃が終わり、阪神の攻撃になると、お兄ちゃんは焼き鳥を回収し、応援に集中させます。そして阪神の攻撃が終了すると、再び焼き鳥を2人に渡すのです。きっといつもお父さんがそうしていたのでしょう。(これぞ阪神ファンの鑑です)焼き鳥を食べ終わると、串を回収します。そして今度はまた何かを買いに行きました。買ってきたのは、ファンタグレープ1本です。その1本をまずは5歳の子に飲ませ、次に2年生の子に飲ませ、自分は最後なのです。ホンマえらいお兄ちゃんです。なんかその健気な様子に感動してしまいました。

☆

☆

☆

7回のラッキーセブンは、風船を持っていなかったもので、お兄ちゃんに風船3つをプレゼントすると、うれしそうに「ありがとうございます」と頭を下げて言うのです。そして弟の分も膨らまそうとするとなかなか空気が入らないので、私が5歳の子の分を膨らませてあげました。2年生の子の分は隣りの知らないオッチャンが膨らませてくれました。邪魔になっていた串カツの串は、前の席の可愛いギャルたちが回収してくれました。(なんて優しい阪神ファンや)そして風船飛ばしが始まると、5歳の子は大興奮です。球場いっぱい飛んでいく風船に目を丸くし、今度は落ちてくる風船にも大喜びです。落ちてきた風船をまた膨らまそうと口をつけようとすると「ダメダメ」とお兄ちゃんが注意をします。

☆

☆

☆

そして阪神の勝利で試合が終わると、3兄弟は空きペットボトルもちゃんと持って出口へ向かうとしたので

「六甲おろしは歌わないの？8号門まで行ける？」と聞くと「はい、大丈夫です。今日はありがとうございました」と頭を下げるのです。

そんなお兄ちゃんを思わずハグしてしまいました。8号門へ向かう3人の後ろ姿のかわいいことかわいこと…。お兄ちゃんも本当は「六甲おろし」を歌いたかったかもしれないですが、早く両親のもとへ行きたかったのですね。お兄ちゃんお疲れ様でした。ホンマようがんばったね。

8号門での親子の再会の姿を想像すると涙が出そうな甲子園の夜でした。